

信 毎 歌 壇

小池 光 選

柴犬が力いっぱい振る尻尾なんて人だけ嘘をつくのか
 (東御市) 丸山 哲史
 落ちた箸拾う事さえ出来ぬ父あの戦争を生き抜いたのに
 (小川村) 久田 肇
 母おもし祖母おもしつつ黒髪のままなる難今年も飾る
 (佐久市) 臼田宇多子
 同い年の永井陽子の歌よめば逢えない人にあいたさつもの
 (東御市) 秋山 君恵
 箸を持つ方が右だと教へられ教へて来しは今昔に
 (長野市) 坂口 智弘
 食卓の六つの木の椅子ひっそりと楽しかったね四十年前
 (長野市) 島田 恰子
 とりおきし信毎歌壇読みかえすひとり暮しの淋しき時は
 (佐久市) 岩下 悦子
 カレンダーに「ミモザの見えるアトリエ」のぼつとひろがり三月来たる
 (長野市) 西村満知子
 湯の中の見知らぬ人に近寄りて人恋ひしさに言葉をかくる
 (上田市) 甲田 隆登
 雪の上アルプスを背に駆ける犬かくも楽しく我も楽しき
 (千曲市) 倉石みづる

あゝの極限の戦争を戦ってきた父なのに。老いはかなしく、そして厳肅である。第三首、人の髪は白くなるが、人形の髪はいつまでもつやつやと黒い。過ぎ去った歳月が思われる。三首とも秀作。

選評

小島 なお 選

急に日が長くなったね 鉛筆が大学ノートに発火している
 (松本市) 上嶋 晴美
 母の部屋の蛍光灯のべらべらの灯りが今日は小さく見える
 (松本市) 堀内 悠子
 立春へ雨水へ啓蟄、やわらかにつづいて昼夜ひとしくなりぬ
 (岡谷市) 川村 修平
 乱雑に入れた商品マン籠へレジの係はきれいに移す
 (御代田町) 柳沢 光雄
 雪の駅 通りすがりに開ボタン押して去りゆく交臂運転手
 (東御市) 吉沢あき子
 足という車輪回してランナーは塑像の面差し「ゴールをめざす」
 (松本市) 井刈 紀子
 心病む娘がふすま切り裂きて「こめんなき」と千代紙を貼る
 (長野市) 森 ふうか
 夕暮れのこの雪に濡れ帰りたい誰かが灯すあの部屋の窓
 (安曇野市) 細川 恒
 「回り道」の指示の行く手は雪野にて轍続々におのきてる
 (中野市) 町田 豊子
 「通信の秘密」といふを講義せし音の職場いまは茶店に
 (長野市) 水上 義昭

母の部屋を包み込む。第三首、細やかにうつくしく季節を刻みながら、ゆっくりと北半球は巡ってゆく。第四首、ささやかな日常のすみずみにまで人の仕事、人の思いが行き渡っているありがたさ。

選評

米川 千嘉子 選

弟の八十回忌効にて意味不明なる口癖徳ぶ
 (駒ヶ根市) 富脇 裕
 瑕疵多きわれをこれまで褒めくれし老師を待てる施設のロビー
 (飯山市) 市村紀久子
 びん割れて床に醬油の広がれりつきため息に被災地よぎる
 (岡谷市) 山岡 はな
 お互いに娘夫婦は思いやるワンマンだった亡夫を思う
 (富田村) 金本 牧子
 雪山に銃声ひびく克狩り記念日祝ひし学校行事
 (御代田町) 柳沢 光雄
 まあなんといいにくい事言う人よ分析すれば間違いではない
 (佐久市) 水間喜美子
 震度2で不気味に響く梁と桁の家支えて六十年に
 (長野市) 宮崎 雄
 春風の遊び相手に選ばれて花びらのドレスふわりと揺れる
 (松本市) 飛 和
 唄が緩びてきたり鏡手に笑顔の筋トレ歌も筋トレ
 (千曲市) 倉石みづる
 この星にさよならをした幼児を傷みて寒空しほらく仰ぐ
 (長野市) 近藤 光子

の奥行き。第三首、一つの醬油瓶でさえ割れて中身がこぼれるのはがっかりする。まして被災地は。第四首、世代や時代の差とだけで片付けられるものなのか。共感する読者は少なくないかも。

選評

スーパード夫の好物手に取るもハッと気すきてもういないんだ
 (辰野町) 矢島あき子
 「おじいさま」母ちゃんたちはさう呼んだ懐しきかな昭和の時代
 (塩尻市) 太田 四郎

第一首、嘘をつくのは人間だけ。動物は嘘つかない。まして元気で立派な柴犬なれば。上句と下句の間に飛躍があり、謎めいているところがおもしろい。第二首、人老いて落とした箸さえ拾えない。

選評

ゆつくりと開いてほしいつぼみ蓮ひとりサイズの鍋を予選
 (松本市) 川村 聡子
 「鶏肉に玉子もなべて残酷」と言う子完食親子とんぶり
 (坂城町) 柄沢 満則

第一首、窓辺に置かれたままのノートと鉛筆。傾く陽にじりじりと発火しそうな鉛の芯は、若い季節のあざやかな焦燥か。第二首、春が来て、窓からの光が蛍光灯よりもずっと強く明るく、前向きに

選評

病友と次回(こ)でと受診口を合わせ待合室テート場所とす
 (長野市) 島田 恰子
 減点を自己申告する生徒いて後ろ姿を思う 幸あれ
 (安曇野市) 細川 恒

第一首、まだしっかり話せないほど幼い頃に亡くなった弟。「意味不明なる口癖」が切ない。第二首、いつでも褒めて見守ってくれた師を老人ホームに訪う。思い出をたどりながら今の師を待つ思い

選評